

会 議 結 果 報 告 書

令和 6 年 1 0 月 3 0 日

会 議 の 名 称	令和 6 年度 第 3 回舞鶴市子ども・若者支援会議 産前・産後サポート部会	
種 別	☒ 附 属 機 関 ☐ 懇 話 会 等	
開 催 日 時	令和 6 年 9 月 2 7 日（金） 1 4 時 3 0 分～ 1 6 時 3 0 分	
開 催 場 所	舞鶴市中総合会館 3 階 集団健診室	
出 席 者	永木ひとみ、上野和美、谷口英子、山根亜由美、尾崎美希、小幡彰一、埜村彩、片山庄子、新宮美紀、坂野智美 事務局（瀬野勝久、尾橋淳子、真下知子、内藤恵美、緒方睦子、舩原理恵子）	
議 題	産前・産後サポート部会 （ 1 ） 第 2 回 の ま と め （ 2 ） 意 見 交 換 （ 3 ） 全 体 の ま と め	
公 開 の 区 分	☒ 公 開	
	☐ 部分公開	[理由]
傍 聴 者 数	0 名	
審 議 結 果 及 主 な 意 見 等	別紙参照	
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約	
備 考		

担 当 課	舞鶴市健康・こども部 こどもまんなか室 こども家庭しあわせ課 TEL （ 0 7 7 3 ） 6 6 - 1 0 0 8
-------	---

第3回 舞鶴市子ども・若者支援会議 産前・産後サポート部会 議事録（要約版）

日 時：令和6年9月27日（金）14時30分～16時30分

場 所：舞鶴市中総合会館

参加者：委員10名 事務局5名

1. 議事等

- （1）第2回会議のまとめ
- （2）意見交換
- （3）今後の方向性の検討
- （4）まとめ
- （5）閉会

2. 第2回会議のまとめ

○めざすべき方向性の確認

○こども家庭しあわせ課の考え（ハイリスクは委託、ポピュレーションは補助の考え）

産前産後のサポートについて、強い思いを持って関わっていただける方が多いのは、舞鶴の強み。

○産前産後支援体制…各々の機関ができること

（内容の確認）追加修正あれば

3. 意見交換

【資料2について】

- ・助産院は、産前から支援を開始しているため、産後だけでなく、産前を追記する。
- ・産後の身体の変化は、医療機関だけでなく子育てひろばでのHAPPY マタニティひろばなど、色々な所で妊婦本人だけでなく、家族にも理解してもらうように働きかけていく必要がある。例えば、骨盤底筋の話や骨盤ベルト、お腹周りのケアなど。
- ・地域リハビリ支援センターとしての立場では、出産時に脳出血などになって、母はICUという方もあるし、ベビーに障害があって早期から関わるケースもある。ダブルケア（育児と親の介護）のケアラーもある。高齢者の介護予防の場面では、女性の尿失禁予防の話をよくするので、出産後の早期にしっかり関わっておくことも大事。
- ・『家族まるごと』『地域で風土をつくる』自分たちも一緒に関わっていく。どこに行っても母に伝えられるように、となると、やはり【風土】なのではないか？資料2のすべてを支える・包むように各機関があればよいのでは？各機関がその力を発揮しやすいための、包み込むものとして両手で支えるようなイラストがあってもよい。このまち舞鶴がそうイメージできるようなものがあれば。それぞれビジョンに向かっていると分かる、連帯感・風土かもしれない。→包み込む絵は、舞鶴の地形でもよいかな？

【連携について】

- ・ハイリスクの人の各関係機関の情報連携がしやすくなるようなことが考えられると良い。産後のサ

ービスについて、医療機関で伝えてもらっている、今どのサービスが必要か分かっていない人もいます。妊娠中に、自分に合った必要なサービスを伝えられる人に出会えると良い。誰も相談にのってもらえなかったというようなことはなくしたい。チームの中で何回も伝えていく事が出来れば、妊婦とその家族に伝わるタイミングがあると思うため、資料2は、お互いの機関をつなぐのが⇒ではなく、輪（わ）になった方がよい。

【妊娠期の支援について】

- ・産科医療機関は、1～3か月に1回、こども家庭センターとカンファレンスの会議を開催し情報共有を行っている。妊婦健診で医師の診察の後、助産師が30分程度面談を実施。母のフォローについては優先的に考えており、お産が近づくと不安も強くなるため丁寧に関わっている。
- ・妊娠7か月アンケートの内容の見直しを検討中。アンケート内容を保健師が確認し、医療機関とも連携をしながら、訪問や面談に繋げている。
- ・精神面のフォローと産後のサポート体制を妊婦とその家族が考えることがとても大切であり、そこを丁寧に関わっていく仕掛けとして、面談チケットのようなものがあると、面談先の間口が広がり良いのではないかな。

4. 今後の方向性

資料4の説明

【ハイリスクとポピュレーションの表現について】

- ・ハイリスクとポピュレーションの区分けはない方が良い。市民にはわかりにくく、違和感を感じないような表現を考える方が良い。
- ・医療機関では、ハイリスクの方は、サービスやケアに差をつけるというよりも、関わり方が変わってくる。精神疾患既往、サポートがない、日々の入院生活で様子を見ていて心配な場合もある。舞鶴市はすごく恵まれている。ファミサポもしっかりしている。他市ではそうでもない。ファミサポで産後支援をしているのは、府内でも舞鶴市と他1～2市のみ。

【ハイリスクとポピュレーション以外の表現について】

- ・2軸よりもグラデーションがよいと思う。マズローの欲求5段階が分かりやすいと思っている。
- ・児童福祉界限では、3層がある。特に支援が必要な黒・グレー・白（予防）。子育てひろばのヘビーユーザーは白よりのグレーが多いが、最近は全員グレーと思っている。ハイリスクは個別性が高い人。下に行くほど汎用性が高い。より地域社会で健全に暮らしていくなど。

【補助事業（自主事業）について】

委託は、市がやるべき事業をお願いすること。補助事業は市が作る補助金の交付要綱に沿った手上げ方式、主体が異なる。事業者が自由度高くやりたいことをやろうとするのが補助。選択肢の一つとして考えている。まだしっかり考えていないが、ハイリスクは委託、ポピュレーションは補助という考え方もあると思って書いてある。決定していることはない。

5. まとめ

- ◆委員全員で、産前産後サポート部会としての目指す方向性を決定することができた。
- ◆めざす方向性（ビジョン）に向かって、『医療機関と地域のサービスがもっと連携してつながり、市民に伝えていくためには何が必要なのか』や『どんなサービスが必要なのか』など具体的な話し合いができた。

6. 閉会

10月18日：第2回子ども若者支援会議

産前産後サポート部会のまとめを上程。上野会長より報告。

報告書は、部会メンバーに確認を依頼。（10月6日締め切り）

年度内（1月か2月頃）産前・産後サポート部会（座談会）予定

→HAPPY マタニティひろばの状況報告や産科医療機関で実施された取組、進捗などの共有。